人口　83,809（前月比－31）　世帯数　33,343（前月比＋4）（平成27年11月1日現在）

Ayase City Newsletter

2015年 12/1 No.1049

広報あやせ

平成27年12月1日号

再生紙・環境インクを使用しています

主な記事

2 防音工事受け付け対象年次緩和
3 健康だより
4 障害者週間
5 綾瀬イルミネーション▶

後世に伝える平和の尊さ

戦争体験記集DVDを作成

戦後70年の節目を迎え、戦争の記憶を語り継ごうと、DVD作品「伝えていきたい戦争の記憶『市民が語る戦争体験記集』」を作成しました。市ホームページで公開しているほか、12月1日(火)から市民課と、2日(水)から図書館で貸し出しを開始します。

問市民課☎70・5605。

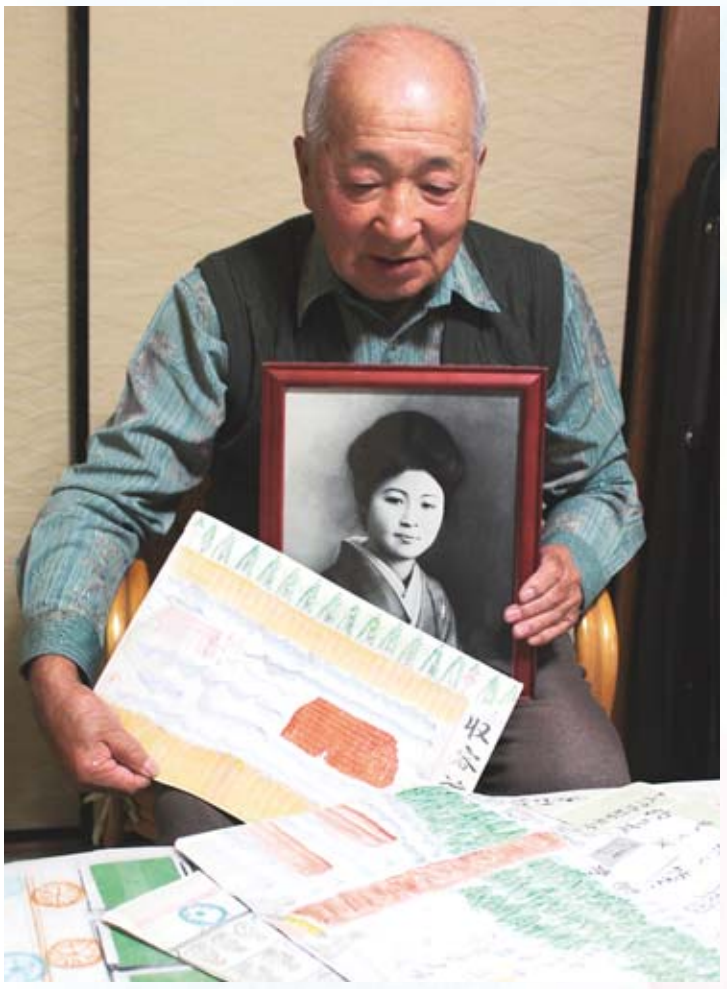
市民10人の体験談収録 2週間限度に貸し出し

先の大戦は、国内での厳しい教化や統制などを生み、国民の生活を様変わりさせました。尊い命が奪われ、多大な犠牲を払い、戦争は終わりましたが、戦後も経済的な混乱や食・住宅不足など、人々の暮らしは厳しい状況に置かれることとなりました。

終戦から70年。我が国では戦後生まれの世代が人口の8割を超え、戦争は遠い記憶になりつつあります。しかしながら、私たちは戦争への道のり、戦中の苦難、さらには戦後の歩みを振り返り、その歴史から未来への知恵を学ばなければなりません。

DVDは、戦中・戦後の体験や記憶などを風化させることなく、戦争の恐ろしさと悲惨さ、平和の尊さを後世に伝えていこうと作成したものです。空襲やシベリア抑留など、市民10人の体験談を収録しています。

貸し出しは同課・同館(☎77・8191)で、市内在住・在勤・在学の方を対象(同館では登録により市民以外の方も可)として2週間を限度に行います。数に限りがあるため、借りたい方はあらかじめ問い合わせてください。



及川勝郎さんは、シベリア抑留の体験談を今も小学校や地域などで語り継いでいます。苦しいときに心の支えとなったお母さんの遺影と、自らが描いた抑留体験の回想画に囲まれながら、「戦争は絶対にいけない」と訴えます。

戦争は絶対にいけない

シベリア抑留体験者の及川さん

作品に登場する及川勝郎さん（88歳、大上）は、シベリアでの抑留を体験しました。当時のことを次のように振り返ります。

「18歳で志願兵となり、飛行隊の整備兵として浜松で3か月の訓練を受け、満州へ渡りました。軍隊は上下関係が厳しく、叩かれ、怒られることは日常的にありました。母の写真を持っていたので、その写真を心の支えにして、苦しみに耐えていました。

敗戦直後、捕虜になったときは武器もなく、所持品は全て略奪されました。

満州からシベリアへは貨物列車に乗せられ、2か月かけての移送となりましたが、貨車に押し込められ、与えられた食事は家畜用の豆かすでした。

シベリアで強制労働の日々を送りましたが、極限状態でみんな無口になり、隣の人がどのような人なのかも分かりませんでした。毎日のように誰かが亡くなり、遺体は収容所の裏山に埋められるのですが、オオカミに掘り返されるなど、本当にかわいそうでした。

3年で抑留が終わり、日本へ帰ることになりましたが、喜びはなく、亡くなった人たちのことを思うと悲しくてなりませんでした」

帰国後の及川さんは、積極的に奉仕活動を行いますが、「シベリアで亡くなった人たちのために何かしたい」という思いに駆り立てられたと言います。

「戦争は絶対にいけません。兵士だけではなく、子どもも大人もあらゆる人が苦しむことになります。今の平和を大切に守って、みんなで助け合い、仲良くしてほしいですね」と、後世への思いを話します。

激しい空襲下での町制施行

戦時の綾瀬

▲綾瀬村国民学校での体練の授業

戦争を進めるためには子どものときから教育・訓練する必要があり、教科書は戦争を教材にしたものに改訂され、体育は兵士となる訓練として行われるようになりました。小学校は1941（昭和16）年から国民学校と改められ、綾瀬村では横須賀市諏訪国民学校からの疎開学童を受け入れました。

農業生産・工場・病院など、労働力が不足している所に女性が動員され、傷痍（しょうい）軍人の見舞いなども行われました。

海軍の軍都計画に大和・渋谷・綾瀬の各村が一括して指定され、綾瀬村は1945（昭和20）年4月1日に綾瀬町となったものの、空襲が激しい中での町制施行で、物資不足も深刻でした。建設資材も調達できず、都市計画の具体化が全く進まないうちに敗戦を迎えることになりました〔参考文献：写真で見るあやせ（綾瀬市史10別編ダイジェスト）〕。

DVD内容

（収録時間60分04秒）

※氏名は出演者（敬称略）

①長男の出征から戦死公報：篠﨑德治（吉岡）
②私の中の大東亜戦争の苦い思い：岩本喜夫（上土棚南）
③私の戦争体験：皆川花子（寺尾台）
④私の空襲体験と戦後のくらし：濱田徹（綾西）
⑤東京空襲と横浜空襲体験：飯田綾子（深谷上）
⑥台湾よりの引揚者として：若林昇（寺尾本町）
⑦終戦の思い出：秋山博明（深谷中）
⑧戦時下の青春：青木まさ子（深谷上）
⑨東京空襲を体験して：長坂まさ子（大上）
⑩シベリアでの抑留体験：及川勝郎（大上）

編集・発行　綾瀬市秘書広報課　〒252－1192　綾瀬市早川550番地　☎0467・77・1111（代表）　FAX0467・70・5701　市HPwww.city.ayase.kanagawa.jp　携帯版は